

第 11 回 子音階程交替

教科書の該当ページ：87 ページ、112～114 ページ、195～196 ページ

子音階程交替 → 教科書第 11 課⑦、第 17 課⑦

動詞は主語の人称や数に合わせて形が変わりますが、その際、語幹の後に人称語尾がつきます。また、名詞・形容詞は格変化しますが、その際、語幹の後に格語尾がつきます。このとき、一部の動詞や名詞・形容詞で語幹末の子音に交替が生じることがあり、これを子音階程交替と呼んでいます。交替が起こる子音の組み合わせは決まっていて、組み合わせの一方を強階程、もう一方を弱階程と呼ぶことにすると、その対応は次のようになります。

強	pp	tt	kk	p	t	k	ht	mp	nt	nk	lt	rt	lke	rke	hke
弱	p	t	k	v	d	セ ^ロ	hd	mm	nn	ng	ll	rr	lje	rje	hje

動詞の子音階程交替 → 教科書第 11 課⑦

動詞の子音階程交替には二つのパターンがあります。

	タイプ I	タイプ II
グループ	グループ I	グループ III、グループ V
不定詞	強階程	弱階程
1 人称単数	弱階程	強階程
2 人称単数	弱階程	強階程
3 人称単数	強階程	強階程
1 人称複数	弱階程	強階程
2 人称複数	弱階程	強階程
3 人称複数	強階程	強階程
否定形	弱階程	強階程
命令形	弱階程	強階程
不定人称受動形	弱階程	弱階程

すべての動詞が階程交替するわけではありません。その動詞が階程交替するかどうかは、不定詞と 1 人称単数形を比較すればわかります。また、階程交替には二つのパターンがありますが、どちらのパターンに属するかも、不定詞と 1 人称単数形を比較するとわかります。ですから、動詞を覚える際は、不定詞の形だけでなく 1 人称単数形も覚えておいた方がよいでしょう。

名詞の子音階程交替 → 教科書第 17 課⑦

名詞・形容詞の子音階程交替には二つのパターンがあります。

	タイプ I	タイプ II
単数主格	強階程	弱階程
単数属格	弱階程	強階程
単数分格	強階程	弱階程
単数{中で}格	弱階程	強階程
単数{中へ}格	強階程	強階程
単数{中から}格	弱階程	強階程
単数{所で}格	弱階程	強階程
単数{所へ}格	弱階程	強階程
単数{所から}格	弱階程	強階程
複数主格	弱階程	強階程
複数属格	強階程	強階程
複数分格	強階程	強階程
複数{中で}格	弱階程	強階程
複数{中へ}格	強階程	強階程
複数{中から}格	弱階程	強階程
複数{所で}格	弱階程	強階程
複数{所へ}格	弱階程	強階程
複数{所から}格	弱階程	強階程

すべての名詞・形容詞が階程交替するわけではありません。その名詞や形容詞が階程交替するかどうかは、単数主格形と単数属格形を比較すればわかります。また、階程交替には二つのパターンがありますが、どちらのパターンに属するかも、単数主格形と単数属格形を比較するとわかります。ですから、名詞・形容詞を覚える際は、単数主格の形だけでなく単数属格形も覚えておいた方がよいでしょう。なお、単数主格と単数分格は必ず同じ階程になることにも注意しましょう。

目的語の格表示 → 第9課③

第9回で見たように、目的語は分格・属格・主格のいずれかで表わされます。しかし、人称代名詞および疑問詞 **kuka**「誰」が目的語になっている場合は、属格・主格の代わりに対格が使われます。人称代名詞および疑問詞 **kuka** 以外の名詞・形容詞には対格がありません。なお、目的語を表わす分格と対格の使い分けの条件は、他の名詞・形容詞の場合と同じです。人称代名詞の変化は第10課⑤(p.112)を参照してください。

例) 私はあの男を知っています。 **Minä tunnen tuon miehen**(単数属格).
 私は彼を知っています。 **Minä tunnen hänet**(単数対格).
 私はあの男を知りません。 **Minä en tunne tuota miestä**(単数分格).
 私は彼を知りません。 **Minä en tunne häntä**(単数分格).